

令和5年度 学校評価書 (計画段階)

福岡県立香住丘高等学校

自己評価					学校関係者評価	
学校運営計画(4月)				評価(総合)		
学校運営方針		人間教育に主眼を置き、将来、国家社会に貢献できる人材の育成をめざす。			自己評価は A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である	
昨年度の成果と課題		年度重点目標		具体的目標		
<p>昭和60年の開校以来、校訓「玄海の海の如く、広く、雄々しく、美しく」のもと、「道・学・志」の教育指針に基づき、あらゆる教育活動において「社会を生き抜く力」を培い、高い知性と豊かな人間性を身に付けた生徒の育成に努めてきた。</p> <p>その結果、昨年度は国公立大学190名の合格など生徒の希望進路を実現するとともに、部活動においても全国大会等へ出場を果たすなど、学習・部活動の両面で大きな成果をあげている。</p> <p>創立40周年に向け、今後とも英語科、数理コミュニケーションコースを有する本校の特色を活かし、課題研究等をも更に充実させることで、生徒の高い志を育み、予測困難な時代を切り拓き、よりよい社会の創り手として成長できる人材を育成することのできる「規律ある進学校」としての飛躍を目指す。</p>		1 主体的・対話的で深い学びの視点を立った不断の授業改善	(1)すべての教科・科目における探究型学習活動の実践 (2)ルーブリックを用いた観点別評価の工夫・改善による学習意欲の向上 (1)「英語科」を牽引力とした国際理解教育の充実 (2)「数理コミュニケーションコース」を中心とした「香住丘版理数教育」の充実 (3)教科等横断的な視点に基づく教育活動の工夫・改善 (4)福岡女子大学との高大連携協定締結による特色ある教育活動の推進			
		2 特色ある学科・コースを両輪とした学校の教育力向上	(1)「規律ある進学校」香住丘生としての誇りと自覚の涵養 (2)学校行事・生徒会活動及び部活動等を通じた感性やリーダーシップの育成 (1)社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成するキャリア教育の推進 (2)教育活動を通して、生徒の個性・能力・適性を十分に伸ばす進路指導体制の確立 (3)同窓生や大学等地域の教育資源の活用			
		3 礼節を重んじ、感性とリーダーシップを育む生徒指導の推進	(1)自他を尊重する精神、高い人権意識、鋭い人権感覚の涵養 (2)学校教育活動全体を通じた人権教育及び道徳教育の一層の充実 (1)学校HPのタイムリーな更新をはじめとして、学校説明会等の開催など、本校の特色ある教育活動を積極的に情報発信するアグレッシブな広報活動の充実 (2)同窓会をはじめ地域人材の教育力導入を図るとともに、地域行事への参加や校種間交流の推進			
		4 高い志を育み、希望進路実現を達成するキャリア教育の推進	(1)不断の業務見直しやICTの活用による業務の効率化と組織的な教育活動の実現 (2)適切な人事評価を通じた教職員一人一人の能力開発と人材育成 (3)教育職員としての自覚と責任、倫理観の高揚による不祥事防止等の徹底した取組			
		5 人権・同和教育の推進				
		6 地域から信頼される学校づくりの推進				
		7 教職員の働き方改革推進と綱紀の厳正な保持				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
学務部	教務課	探究型学習活動の実践の推進	①研究部と協力し、相互授業参観等を通して探究型学習活動を実践する。 ②授業アンケートの電子化により、授業改善に係る調査・分析の効率化を図る。			
	教育振興課	教務課業務のマニュアル化及び効率化 学校教育・学校行事の円滑化 PTA・同窓会との連携の強化	①業務に関する問題点、課題点の記録・集約を確実にし、改善を進める。 ②時間割調整など各種業務に係るマニュアルを作成し、業務の効率化を図る。 ①月間行事予定の早めの配付とHPを活用した校外への発信を行う。 ②職員室等共同で使う場所の整理整頓を徹底し、教育環境を整備する。 ①定期的に行われる役員会を通してPTAとの情報交換を密にし、連携を図る。 ②同窓会役員との情報共有を適切に行い、同窓会との連携を図る。			
生徒部	生徒指導課	礼節を重んじる態度の育成 感性とリーダーシップを育む指導の推進	①全職員で爽やかな挨拶を励行し、相互理解が深まる関係づくりを進める。 ②場面に応じた適切な対応ができるよう、表現力向上に向けた指導を行う。 ①生徒の主体性、自主性を伸ばせるよう、チャレンジしやすい環境づくりを行う。 ②コロナ禍で培われたICT技能を積極的に活用し、学校行事を再編・発展させる。			
	保健課	心身の健康の保持・増進 学習環境と美化の向上	①身体計測及び各種検診活動を円滑に行い、治療助言や疾病予防に役立てる。 ②職員・保護者等と連携し、スクールカウンセリング事業を効果的に推進する。 ①全職員による一斉清掃指導と時間遵守を徹底する。 ②美化委員会を中心に古紙回収を継続し、資源再生活動を推進する。			
進路部	進路指導課	職業観の涵養とそれに基づく適切な進路選択力の育成 高い志と進路目標実現のための学力養成	①外部講師による進路講演会やその他講話等、進路行事の充実を図る。 ②あらゆる教育活動を通して高い志を育み、進路志望を貴くさせる指導を行う。 ①生徒個々の能力や進路志望に応じた課外授業・補習授業を計画・実施する。 ②小論文指導及び推薦型選抜入試指導の研究を進め、指導を充実・発展させる。			
	図書課	主体的・意欲的な学習活動や読書活動の充実 小論文指導の質の向上	①全職員による推進活動を通して、学習・読書活動の充実を図る。 ②学校図書館の環境を整備し、積極的な広報活動を通して情報共有を行う。 ①小論文模試を効果的に活用し、小論文に対する意識を高める工夫を行う。 ②小論文を書く能力の育成に繋がる指導の研究を進め、指導を充実・発展させる。			
研究部	研修課	「主体的・協働的で深い学び」の視点を立った授業と評価の改善 探究型教科・科目の実践と評価方法の開発	①授業研究会や研究授業、校内研修により授業方法や評価方法を常に改善する。 ②年5回以上の職員研修で、ICT活用指導方向上のための実践的な研修を行う。 ①年2回(7月・12月)の生徒課題研究発表会を効果的に実施する。 ②秋以降、探究型教科・科目を1・2年生合同、縦割りで実施する。			
	広報・情報課	訪問事業や体験事業の充実 情報機器の整備・管理とICT業務の適切な運営	①中学校、塾訪問に加え「教育関係者対象学校説明会」を実施する。 ②オープンスクールの内容をより充実させ、全職員協力のもと実施する。 ①学校行事等の記録は3日以内にHPで公開し、閲覧数の増加を目指す。 ②電子黒板、タブレット等の適切な活用と管理の徹底を図る。			

英語科	国際的視野の育成	①多くの英語科行事(夏季研修、夏季ニュージーランド語学研修など)を実施する。 ②福岡市姉妹都市高校生の受け入れを通じた国際交流を実施する。				
	総合的な学力の育成	①暗唱、弁論、ディベート、エッセイ大会で九州大会出場以上を目指す。 ②英検1級・準1級合格10名以上、TOEIC600以上、GTECレベル6を目指す。				
数理コミュニケーションコース	深い科学的思考力の育成	①春季研修等の新設やJSS等の廃止などコース独自の行事を再構築する。 ②福岡女子大学と提携した新たな課題研究発表会や研究活動を実施する。				
	課題研究及び英語学習に対する意欲と学力の向上	①様々な課題研究発表会において、これまでと同程度の受賞数を目指す。 ②卒業までに英検2級取得15名以上、準2級取得25名以上を目指す。				
第1学年	基本的な生活習慣の確立	①時間厳守を徹底し、規範意識の向上を図り、節度ある生活態度を育成する。 ②挨拶・掃除の徹底を図り、学習環境を整えさせる。				
	学習習慣及び基礎・基本の定着	①予習・復習の定着を図り、1日3時間以上の家庭学習を確立させる。 ②授業を中心とした学習習慣を大切にし、自ら学ぼうとする姿勢を育成する。				
第2学年	基本的な生活習慣の確立	①修学旅行に向け5分前行動を徹底し、メリハリある生活態度を育成する。 ②1年生の模範となるよう挨拶、名札の着用、自発的な掃除を実践させる。				
	自発的な学習による第一志望進路の確立	①第一志望を安易に変更せず、実現可能な目標とするための働きかけを行う。 ②進路目標に応じた集会を実施し、次年度に向けた心構えを構築させる。				
第3学年	学校行事の再構築とメリハリある学校生活の確立	①5分前行動とメリハリある学校生活を実践させる。 ②昨年度の学校行事から更に発展させ、新たな香住丘の学校行事を創造する。				
	主体的行動による希望進路の実現	①生徒自ら学びに向かう主体的な行動によって学習の楽しさを実感させる。 ②「百折不撓」の心意気で希望進路を実現させる。				
人権教育	教職員の人権感覚の向上	①人権に関する研修での学びを職員研修等を活用して還元する。 ②香住人権セルフチェックシートを作成し、自らの人権意識を振り返る機会を設ける。				
	中・長期的な人権教育体制の構築	①人権教育授業の学年学習会を年3回以上実施する。 ②学年担当を分掌化し、人権教育授業を軸とした新たな人権教育体制を構築する。				
事務部	各分掌、関係団体との連携推進	①各部との連携を密に行い、必要な環境整備を進める。 ②学校周辺との情報交換及び関係団体との良好な関係づくりに努める。				
	施設点検の徹底と危険箇所の改善	①環境整備班と連携し、定期的な校内巡回を行うことで危険箇所を把握する。 ②改善が必要な箇所については、遅滞なく対応する。				

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・
・
・
・
・

評価項目以外のものに関する意見